

災害時にも、誰も取り残さない 岐阜市華陽地区 民生・児童委員協議会

華陽地区の紹介と現状

華陽地区はJR岐阜駅、名鉄岐阜駅の東側に位置しています。岐阜市の中心部ではありませんが、人の往来は多くなく、下町風情を残しています。

華陽地区の総人口は令和6年4月1日現在7,279人。高齢化率は31.75%で岐阜市の平均(29.28%)を上回っています。参考として、年少人口(0歳~14歳)は742人、生産人口(15歳~64歳)は4,226人です。世帯平均人数は、1.99人と2人を切っており、ひとり暮らし世帯や高齢者世帯は1,200世帯強です。地域コミュニティの目安になる自治会加入率は61%弱です。そして、華陽地区における避難行動要支援者数は、16人の民生・児童委員に対して213人(令和5年6月現在)と圧倒的な数を示しています。

自分の住む地区の人口統計は高齢化対策、災害対策を考えるうえで一番に知るべき情報だと考えます。さらに、華陽地区は農地がなく、

スーパーは1店舗、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、病院も限られています。こうした課題を踏まえ、民生・児童委員として、地域住民を守るための対策を学ぶ必要性を考えていきたいと思っています。

民生・児童委員が取り組む防災

華陽地区民生・児童委員協議会は、地区の自主防災組織とサークル「華陽わが街」と協働をすることで「要配慮者」へのメッセージがより優しいものになっていくのではないかと感じています。

民生・児童委員の立ち位置を考えたとき、まずは「自分の命は自分で守る」が原則であり、自分の命を守り切れてはじめて、家族を守る、人を守ることができると考えます。

「自分の命は自分で守る」は基本前提。

自分の命を自分で守れない人は地域で守る。

地域社会でも守り切れない命は行政が守る。

地域と福祉防災をテーマとした研修会を開催(令和5年11月18日)

11月18日(土)
受付 9:00から
9:30~11:30

華陽公民館

災害時にも
誰も取り残さない防災

個別避難計画を考える

要支援者の方と
地域ができる協働

華陽地区 民生・児童委員
岐阜市 消防防災課
高齡福祉課・障がい福祉課
岐阜市社会福祉協議会
地域包括支援センター(白樺町)
華陽わが街(華陽の防災士)



- ◆ 私たちは避難支援に携われるのか
 - ◆ 私たちは要配慮者とうまく関わることができるか
 - ◆ 私たちは災害対応を考える前に災害対策を立てておく
- これらのことを踏まえて、災害対応、起きてからのことを考える前に起こさせない対策を、まさに「予防に勝る防災はなし」と考えます。
- これを「補完性の原理」と言い、これらのことを地域の防災の中心にしていきたいと思っています。
- 民生・児童委員の一人ひとりが、「自分の命は自分で守れる術を知っておく」ことを肝に命じて、



民生・児童委員から声を大にしてお願ひ!
「町内でのつながりを強く」



町内でのつながりを強く

32%近くの高齢化率を示す華陽地区ですが、ある町内では、皆さんとの申し合わせとして「鎖縁」という造語を作ることので町内の繋がりを強固なものになればと話をしています。以前、華陽地区の80名ほどの方にアンケートを取ったところ、3割の方が「町内(ご近所)のみなさんの顔が分からない」、「ご近所での避難がむずかしい人が分からない」と答えられています。「地域コミュニティの希薄化」「隣近所の変化を見落とす」「孤立世帯が増える」など様々な状況の中で、この3割という数字が意味するものを私たちは真剣に考える必要がある認識を持とうと話しています。

華陽地区いきいきサロン・公民館講座で「鎖縁」を伝える